

眼鏡素材 特長一目で

ユニックス(鯖江)が紹介サイト

商談効率化 異業種からも反響



ユニックスが開設した眼鏡素材を紹介するサイト。異業種からの問い合わせも増えている＝鯖江市の同社

眼鏡資材商社のユニックス(鯖江市神中町2丁目、野尻康司社長)は、眼鏡の企画開発会社やデザイナー向けに同社が取り扱う素材を紹介するウェブサイト「眼鏡素材.com」を開設した。サイトにはさまざまな材質や色、模様の素材が並び、実際に眼鏡枠を作った仕上がりも見本画像で確認できる。商談の手間が一部省けるため、営業担当者の負担軽減などコスト削減につながっている。異業種からの問い合わせも増え、同社は素材の販路拡大に意欲を見せている。

(吉川良治)

眼鏡資材商社の営業担当者はこれまで、数多くのサンプルを抱えて取引先を何度も訪問する必要があった。野尻社長は「両手いっぱい荷物を持って、3回も4回も商談に行かなければならなかった」と話し、営業担当者の大きな負担となっていた。同社は3年前から営業担当社員を採用できなかったこともあり、省力化に向けた新たな取り組みを模索。業界関係者の助言を

成立する時間は従来に比べて大幅に短くなった。

開設後、週に6件ほどの問い合わせが寄せられている。反響が大きかった素材はバックアローの角で、実際に注文もあったという。野尻社長は「以前から取り扱ってはいしたが、広く知られていなかった。サイトを通じて、さまざまな素材を発信できるようになった」と手応えを得ている。

異業種からの問い合わせも増えた。指輪などのアクセサリに加え、万年筆といった文房具に素材を使いたいとの引き合いが多く、野尻社長は「思わぬ反響で驚いている。アクセサリの市場は大きい

ため、販路拡大につなげたい」と意欲を示す。

7月からは、サイトの運営や閲覧履歴の分析などを担当する社員を配置。得られたデータを次の戦略に活用する考えだ。今後はチタンなど金属の素材も掲載していく。同社の売上高の3割は海外向けのため、将来的にはサイトを多言語化して問い合わせにも対応する計画だ。

同社は部品加工も手掛けるが、眼鏡枠の完成品の製造、販売には参入しない方針。野尻社長は「われわれはあくまでも素材屋。企画会社と地元メーカーをマッチングさせる役割を果たしていきたい」と話している。